

自立への第一歩

この病気は陽性症状や陰性症状が薬によって改善されても、作業能力（目や耳から入る外界の刺激に反応して適切に処理する能力）に障害が残りやすいといわれています。

患者さんが自立し、スムーズに社会復帰するためには、段階に応じたさまざまなリハビリテーションでこの障害を軽減する必要があります。

個人対個人の
リハビリテーション

[作業療法]

手工芸、スポーツ、音楽などの「作業」を通して、作業療法士がかかわる中でこの病気の回復をはかります。

作業を介して
対人関係が再開

作業を介して
集中力や意欲を養成



グループ活動を通じた
リハビリテーション

[デイケア]

グループ活動を通じて仲間との交流をはかります。文化活動やスポーツ、レクリエーションなどのプログラムが用意されていますが、活動はそれぞれの患者さんに応じて柔軟に行われます。

仲間と過ごせる時間と
場所の提供

グループ活動を介した
対人関係の練習

社会復帰に
向けた
リハビリテーション

[生活技能訓練]

(SST:ソーシャル・スキル・トレーニング)

治療者と数名の患者からなるグループで、社会に適応できる能力を訓練します。実社会での具体的な場面を想定して、その場にふさわしい「対人行動」を身につけます。

対人関係における
弱点補強

課題の実行による
自信の回復